日置市 水土里サークル新聞

第2号

平成30年９月10日発行
発行/日置市産業建設部農地整備課

トピック
○生き物調査
○ため池清掃

○生き物調査

平成最後の暑い夏。日置市の養母地区、上市来地区、花田地区の３地区で生き物調査を行いました。生き物調査は土地改良連合会の協力のもと田んぼや川で昆虫・魚を採取し生き物の生態を遊びながら学ぶことができる毎年人気のイベントです。今年は小中学生八十一人、大人三十六人の計百十七人が参加しました。

日置市の生き物調査ですっかりお馴染みになった自然観察指導員の塚田拓先生の指導のもと２時間足らずでカエルやトンボ、イモリ、カワムツ等二十種類以上の昆虫や魚を捕まえることができました。採取後は水槽の中に入れた生き物をみんなで観察し、先生から生き物それぞれの特徴を教わりました。上市来地区ではカエルを２種類捕まえましたが、子どもたちはヌマガエルよりアマガエルが多いことに気づきました。先生から「同じカエルであっても種類によってそれぞれ適した生息環境がある。この地域はアマガエルに適した環境ということだ。」と教わると子どもたちは感心した様子でした。

生き物調査（水質検査の様子）

（塚田先生のお話）

「生き物が相手で仕事が成り立つのかと疑問に思う子もいるだろう。わたしの場合は、例えば太陽光を新しく設置するときなど広く工事をする必要がある場所に絶滅危惧種の生き物がいないかを調査したり、大手メーカーの契約農場の害虫サンプルの分析をしたり、県内にどういう昆虫がいるのか調べている。好きなことを仕事にできる人は少ない。どんな仕事でもいいけどみんなも好きなことを見つけてほしい。」「みんなはとてもラッキーだ。こんなにたくさんの生き物がいるところで育って。大人になっても忘れないでね。」

子どもたちが経験したこと

生き物調査では子どもたちの真剣な姿を垣間見ることができました。普段は入ることができない川の中で、プールとの違いに「ここは深いから気をつけよう」とお互いを気遣う様子。また、虫取網の使い方に慣れない子らも、同じ目的の中、学年も、人見知りも越えて協力する様子。先生の話を真剣にじっと聞く様子。短い時間でしたが子どもたちのたくさんの表情を見ることができました。

もしかしたら、先生の話は子どもたちには難しかったかもしれません。しかし、親や学校の先生ではない「人生の先輩」先生の話は新鮮だったと思います。人と人との出会いで自分の幅が広がること、人生には様々な選択肢があることを少しでも感じてくれたらと思います。

最後に、今回の調査では普段は遊んではいけない川で泳ぐことができました。それは先生、お父さん、お母さん、そして地域の皆さんが見守ってできたことです。子どもだけでは絶対に川遊びはしないこと！　ご協力いただいた皆さん本当にありがとうございました。

○飯牟礼・古城地区のため池清掃

飯牟礼・古城地区では毎年６月末に地区内にある古池、下池の２箇所のため池の清掃を行っています。今年も猛暑の中、朝７時半から五十名ほどの住民が集い活動しました。

ため池は、自然池や人口池に水を溜め、恒常的に水を田へ送水することで農用水を確保する役割があります。今回清掃した古池は享保一七二四年にあった大飢饉後に作られたと言われており二九四年の歴史があります。これまでに何度も整備されていますが、近くは平成九〜十年に地域ぐるみ再編総合整備事業で整備されました。

途中小雨に見まわれるも１時間ほどで池の周辺やのり面とその周辺道路をキレイにすることができました。雨も上がり綺麗になったため池を横目に帰る途中、地元の方から「古池は“萩之尾池”、下池は“谷之口池”という正式名称がある」と教えていただきました。先祖代々続く田・畑とともに、大事なため池も保全する必要性を感じました